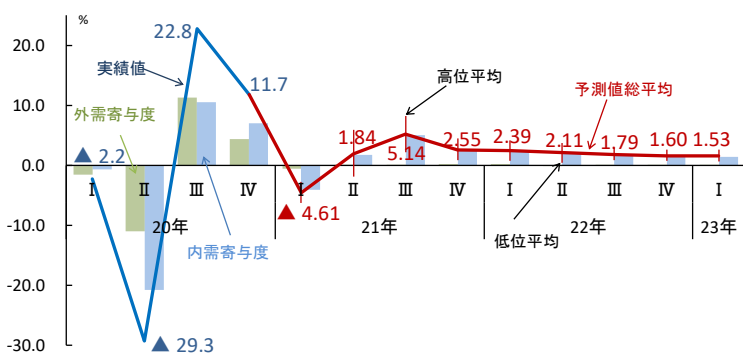


## 1 2021年1～3月期の実質経済成長率(前期比年率)は▲4.61%へ上方修正、4～6月期は1.84%と下方修正。

21年1～3月期の実質経済成長率(前期比年率)は▲4.61%と前月より上方修正された。4～6月期は1.84%に下方修正された。



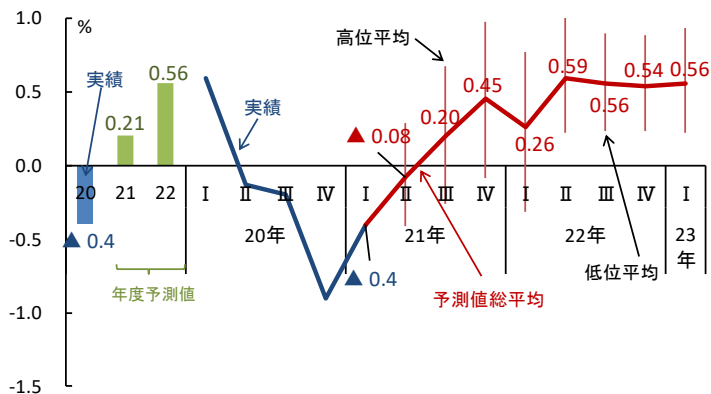
### ◆21年I期(1～3月期)実質GDP及び内訳の増減率(%)

実質GDP前期比年率 (前期比)	内訳			
	民間最終消費支出	民間企業設備投資	財貨・サービスの輸出	財貨・サービスの輸入
▲4.61 (▲1.18)	▲2.18	0.50	1.29	2.14

(注) 内訳4項目は前期比。

## 3 消費者物価上昇率(前年同期比)

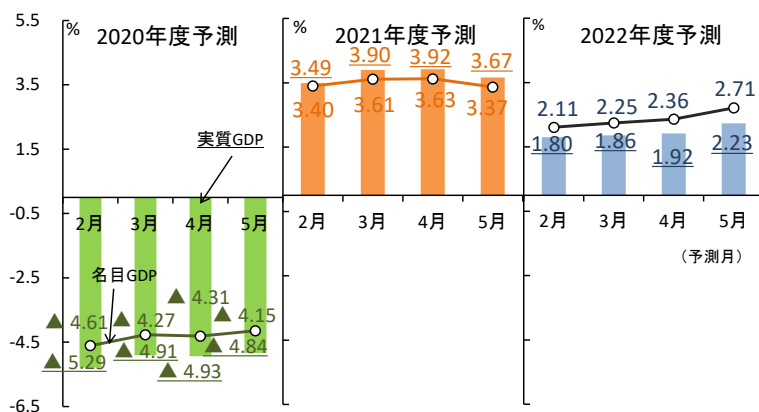
21年4～6月期は▲0.08%で、7～9月期にプラスに転じる。年度では、20年度の▲0.4%(実績)から、21年度以降プラスに転じる見込み。



(注) 生鮮食品除く総合の前年同期比上昇率。

## 2 20・21・22年度の実質経済成長率は▲4.84%、3.67%、2.23%。

20年度の実質経済成長率は▲4.84%と2年連続でマイナス成長となるが、21年度以降プラスに転じる。名目成長率は20年度にマイナスとなり、21年度以降はプラスに転じる見込み。



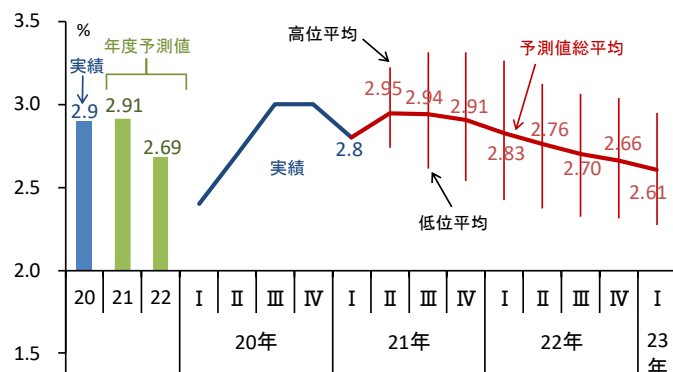
	2020年度	2021年度	2022年度
内需寄与度	▲3.9 (▲3.8/▲4.1)	2.4 (3.2/1.7)	2.2 (3.0/1.3)
うち民需	▲4.8 (▲4.7/▲5.0)	2.0 (2.7/1.3)	2.0 (2.9/1.2)
うち公需	0.9 (1.0/0.8)	0.5 (0.7/0.2)	0.1 (0.4/▲0.2)
外需寄与度	▲0.9 (▲0.8/▲1.0)	1.2 (1.6/0.9)	0.1 (0.4/▲0.3)
実質GDP成長率	▲4.84 (▲4.65/▲4.96)	3.67 (4.58/3.04)	2.23 (2.95/1.53)

(注1) 値の見方: 平均(高位平均/低位平均)

(注2) 1・2の寄与度は簡易計算によるもので厳密なものではない。

## 4 失業率

21年4～6月期に2.95%へ上昇、その後23年1～3月期まで低下が続く。



## 5 21年1～3月期の成長率（その他項目）

主要4項目以外の需要項目について、21年1～3月期の動きを尋ねた。上昇するという回答が多い項目は、「民間在庫変動」だった。「政府最終消費」は低下するという回答が多かった。

（回答数 37）

（実質）	民間 住宅投資	民間 在庫変動	公的固定 資本形成	政府 最終消費	公的 在庫変動
上昇	19	30	19	9	0
横ばい	3	2	2	2	37
低下	15	5	16	26	0
回答数	37	37	37	37	37

（注）フォーキャスター数（名）。前期比伸び率の符号を質問し、プラスの場合に「上昇」、ほぼゼロの場合に「横ばい」、マイナスの場合に「低下」とした。在庫変動はGDP成長率に対する寄与度を尋ねた。

## 6 景気の転換点・・・18年10月が山

18年10月の景気転換点（山）（政府見解、暫定）の次の景気転換点（谷）はもう過ぎたかどうかを聞いた。（回答数 36）

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・36名（前月調査 35名）

転換点（谷）は2020年4月・・・1名、2020年5月・・・34名、2020年7月・・・1名

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・0名（同0名）

転換点（谷）を過ぎたと思う人にその次の景気転換点（山）も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・1名（前月調査 0名）

転換点（山）は2020年12月

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・35名（同35名）

今後1年以内に転換点（山）がくる確率の予測の平均・・・24.6%（同24.3%）

## 7 （特別調査）金融政策と金利見通し

### 1) 金利見通し

21、22年末の短期政策金利と長期金利の誘導目標の見通しを尋ねた。短期政策金利は、21年末は回答者全員が現行並みの「▲0.1%以上0.0%未満」と回答し、22年末も「▲0.1%以上0.0%未満」が多かった。（回答数 37）

長期金利の誘導目標は、21年末は回答者全員が現行並みの「0.0%以上0.1%未満」と回答し、22年末も「0.0%以上0.1%未満」が多かった。（回答数 37）

長短金利の予想値分布（%）		▲0.3 未満	▲0.3 ～ ▲0.2	▲0.2 ～ ▲0.1	▲0.1 ～ 0.0	0.0 ～ 0.1	0.1 ～ 0.2	0.2 ～ 0.3	0.3 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0以上
短期の政策金利	現行=▼	▼											
	2021年末				37								
	2022年末			1	36								
長期金利の誘導目標	現行=▼	▼											
	2021年末				37								
	2022年末				1	35	1						

（注）フォーキャスター数（名）。例えば、「▲0.1～0.0」は「▲0.1%以上0.0%未満」の意味。

### 2) 枠組み自体の変更

上記の見通しに関して枠組み自体の変更などを聞いたところ、枠組みの変更はないなど3名のフォーキャスターが答えた。  
[詳細は9ページ参照]

## 8 （特別調査）米国金利

### 1) 政策金利見通し

21、22年末の米国の政策金利（FFレート・市場実勢値）の予想を尋ねた。21年末は回答者全員が「0.0%以上0.25%未満」と答えた。22年末も「0.0%以上0.25%未満」が多かった。（回答数 37）

米FFレートの予想値分布（%）	▲1.0未 満	▲1.0 ～ ▲0.75	▲0.75 ～ ▲0.5	▲0.5 ～ ▲0.25	▲0.25 ～ 0.0	0.0 ～ 0.25	0.25 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0 ～ 1.25	1.25 ～ 1.5
2021年末						37					
2022年末						36	1				

（注）フォーキャスター数（名）。例えば「0.75～1.0」は「0.75%以上1.0%未満」の意味。

## 2) 長期金利見通し

21年6月末、12月末、22年6月末、12月末の米国の長期金利（10年国債）の予想を尋ねた。回答が多かったのは、21年6月末は1.5%以上1.8%未満、12月末は1.7%以上1.9%未満、22年6月末は1.8%以上2.0%未満、12月末は1.9%以上2.0%未満だった。（回答数36）

米国の長期金利 (10年国債)の 予想値分布(%)	0.7 ～ 0.8	0.8 ～ 0.9	0.9 ～ 1.0	1.0 ～ 1.1	1.1 ～ 1.2	1.2 ～ 1.3	1.3 ～ 1.4	1.4 ～ 1.5	1.5 ～ 1.6	1.6 ～ 1.7	1.7 ～ 1.8	1.8 ～ 1.9	1.9 ～ 2.0	2.0 ～ 2.1	2.1 ～ 2.2	2.2 ～ 2.3	2.3 ～ 2.4	2.4 ～ 2.5	2.5 ～ 2.6	2.6 ～ 2.7	2.7 ～ 2.8
21年6月末	1					1	1	1	7	11	10	3	1								
21年12月末			1	1			1	1	4	1	7	7	5	5		2		1			
22年6月末				2			1	1	1	3	1	7	7	6	2	2	2		1		
22年12月末				1		1		1	1	2	4		8	6	4	1	1	3	1	1	1

(注) フォーキャスター数(名)。例えば「1.0～1.1」は「1.0%以上1.1%未満」の意味。

## 9) 景気のリスク

半年から1年後にかけて景気上昇を抑える（あるいは景気を反転させる）可能性がある要因を聞いた。「新型コロナウイルスの感染状況」が最も多く、「中国景気の悪化」「米国景気の悪化」と続く。「その他」に3名が回答し、半導体の供給制約、財政引き締め、早期増税を挙げた。「金利上昇」と回答した理由欄には、米国の金利上昇等が挙げられている。（回答数36）

[リスクとして挙げた理由（16名が回答）については9ページを参照]

### ◆景気のリスク(複数回答、3つまで)

① 円高	3
② 株安	4
③ 金利上昇	10
④ 原油価格の上昇	1
⑤ 公共投資の減少	0
⑥ 米国景気の悪化	12
⑦ 中国景気の悪化	14
⑧ IT部門（電子部品など）の悪化	1
⑨ 国内政治の不安定化	1
⑩ 国際関係の緊張や軍事衝突	7
⑪ 保護主義の高まり	1
⑫ 新型コロナウイルスの感染状況	34
⑬ オリンピックの再延期・中止	3
⑭ その他	3

(注) フォーキャスター数(名)。

## 10) (特別調査)中国製造業PMI

中国製造業PMI（国家統計局公表）に関して50超を「上昇」、50で「横ばい」、50未満を「下降」とし、見通しを尋ねた。21年4～6月期以降、「上昇」が多い傾向が続く。（回答数35）

	2021Ⅱ	2021Ⅲ	2021Ⅳ	2022Ⅰ	2022Ⅱ	2022Ⅲ
上昇	32	32	29	25	24	23
横ばい	2	3	5	7	10	11
下降	1	0	1	3	1	1

(注) フォーキャスター数(名)。

## 11) (特別調査)オリンピック開催

今回の予測に、21年度のオリンピック開催を織り込んでいるかを尋ねたところ、35名が織り込んでおり、2名が織り込んでいないと答えた。織り込んでいない場合には、その理由を尋ねた。（回答数37）

### ◆2021年度のオリンピック開催を予測に織り込んでいるか

	はい	いいえ
オリンピック開催	35	2

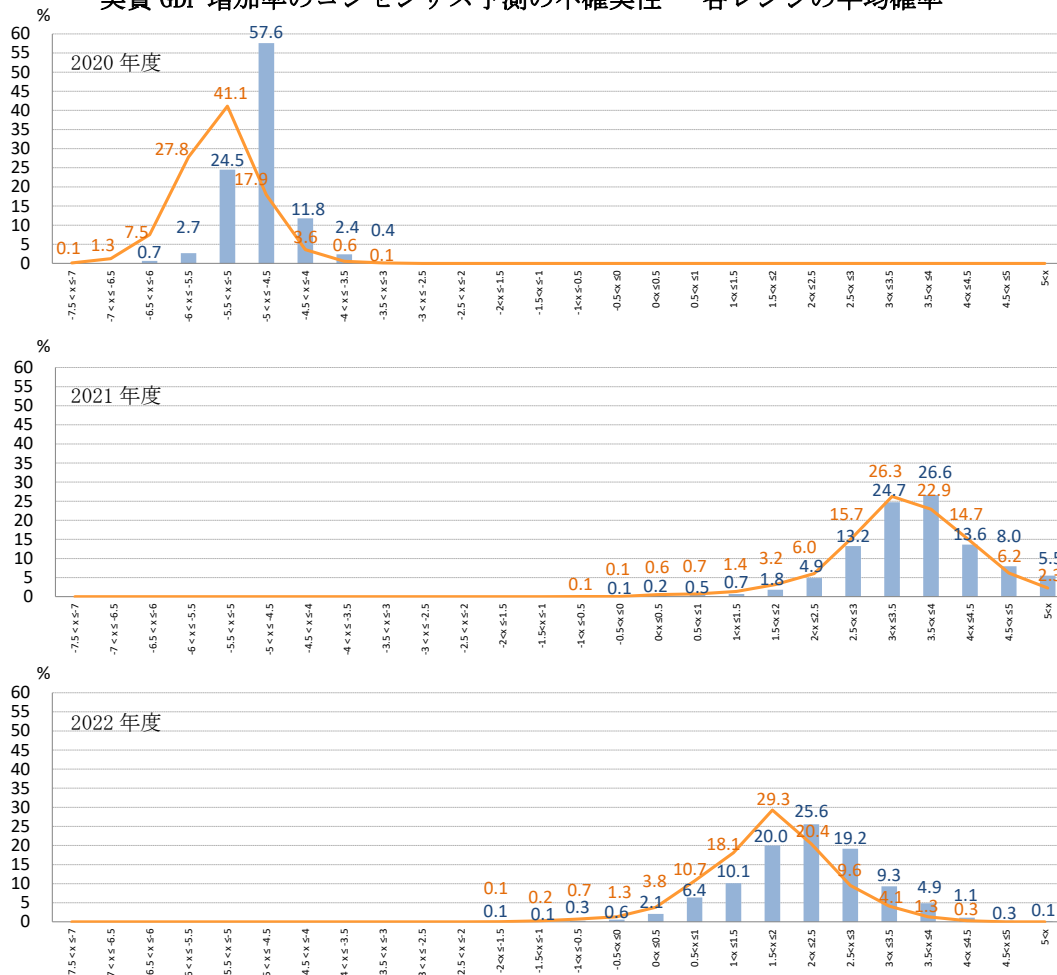
(注) フォーキャスター数(名)。

### ◆予測に織り込んでいない理由

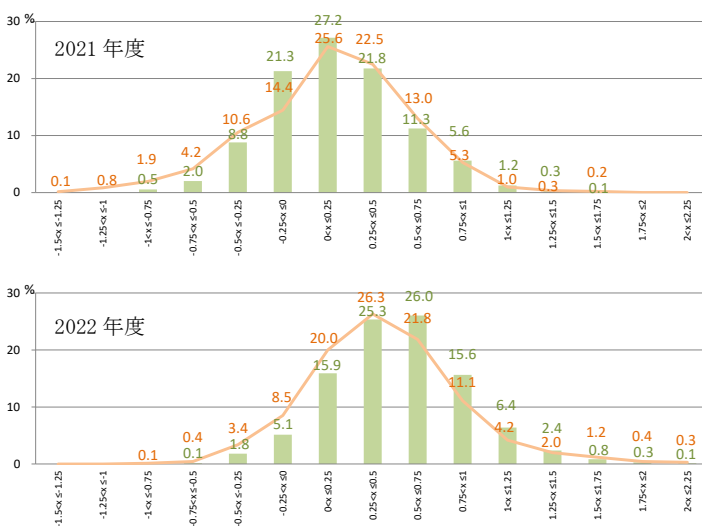
①開催経費がどの程度膨らむのか見通せない	0
②再延期・中止の可能性も否めない	2
③その他	0

(注) フォーキャスター数(名)。複数回答

実質 GDP 増加率のコンセンサス予測の不確実性 各レンジの平均確率



CPI(生鮮食品除く総合)騰落率のコンセンサス予測の不確実性 各レンジの平均確率



(注)各フォーキャスターが各レンジに付した確率の平均値。折れ線グラフは、21年2月の予測値。

(参考) 海外主要3カ国・地域の実質GDP成長率予測(暦年、%)

	米国	ユーロ圏	中国
2020年	▲3.5	▲6.8	2.3
2021年	6.27 (5.81)	4.02 (3.98)	8.61 (8.36)
2022年	3.69 (3.58)	3.75 (3.66)	5.48 (5.45)

(注) 20年は実績値。( )内は前月調査。

次回(2021年6月調査)の公表予定は6月15日頃